

工事事故(速報)の情報提供について

工事の安全管理には、日頃から万全を期していただいているところではありますが、この度、残念ながら別紙に示す工事事故が発生しました。

このような工事事故が再び発生することのないように工事事故概要を皆様にお知らせいたします。

本資料を活用し、受注者を適切にご指導頂き、再発防止に努めて頂きますようお願いいたします。

【工事事故(速報)発生状況】 (H29.3.31現在)

	3月発生件数	累計件数	死亡者数	負傷者数
平成28年度(今年度)	11件	66件	1人	23人
平成27年度(昨年度)	4件	78件	4人	21人

注1) 上記は、関東地方整備局管内の工事事故発生件数(速報)を示す。

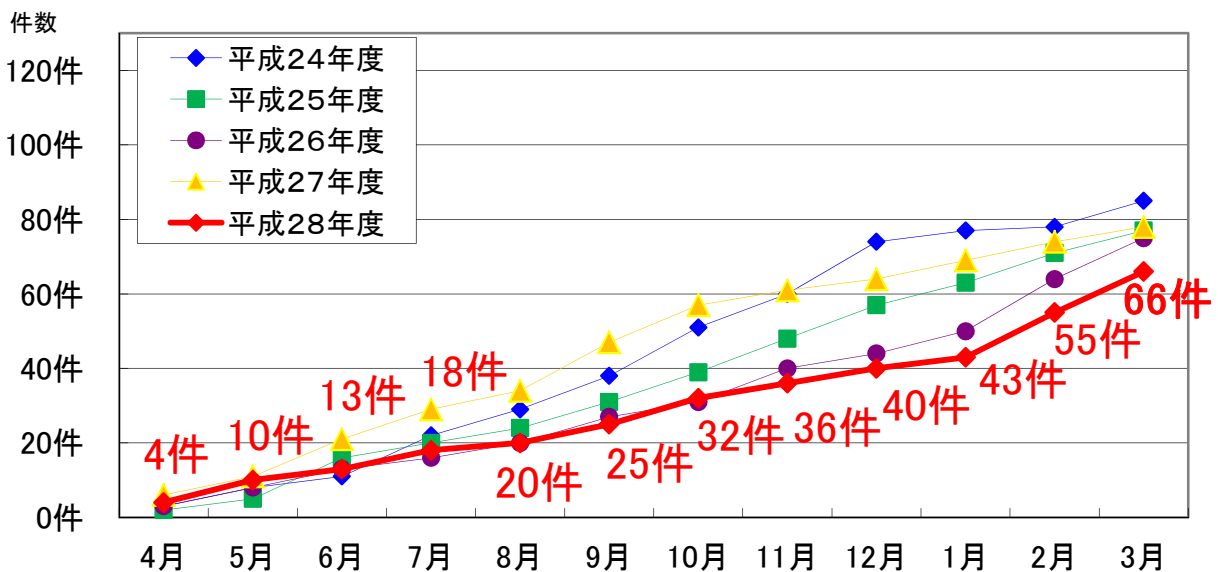
注2) 「2月発生件数」は、2/1～2/28の間に起きた件数。(月毎分)

注3) 「累計件数」は、4/1～3/31の間に起きた件数。(累計分)

注4) 「死亡者数」「負傷者数」は、4/1～3/31の累計人数を示す。

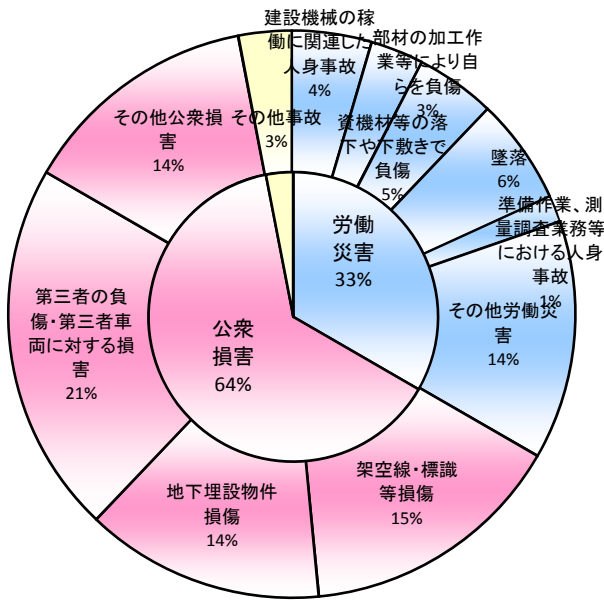
注5) 平成28年度の数字は「速報」であり、審査の結果、「不問」になる可能性がある。

●工事事故件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成24年度 累計 (月毎)	3件 (3件)	8件 (5件)	11件 (3件)	22件 (11件)	29件 (7件)	38件 (9件)	51件 (13件)	60件 (9件)	74件 (14件)	77件 (3件)	78件 (1件)	85件 (7件)
平成25年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	5件 (3件)	16件 (11件)	20件 (4件)	24件 (4件)	31件 (7件)	39件 (8件)	48件 (9件)	57件 (9件)	63件 (6件)	71件 (8件)	77件 (6件)
平成26年度 累計 (月毎)	3件 (3件)	8件 (5件)	13件 (5件)	16件 (3件)	20件 (4件)	27件 (7件)	31件 (4件)	40件 (9件)	44件 (4件)	50件 (6件)	64件 (14件)	75件 (11件)
平成27年度 累計 (月毎)	6件 (6件)	11件 (5件)	21件 (10件)	29件 (8件)	34件 (5件)	47件 (13件)	57件 (10件)	61件 (4件)	64件 (3件)	69件 (5件)	74件 (5件)	78件 (4件)
平成28年度 累計 (月毎)	4件 (4件)	10件 (6件)	13件 (3件)	18件 (5件)	20件 (2件)	25件 (5件)	32件 (7件)	36件 (4件)	40件 (4件)	43件 (3件)	55件 (12件)	66件 (11件)

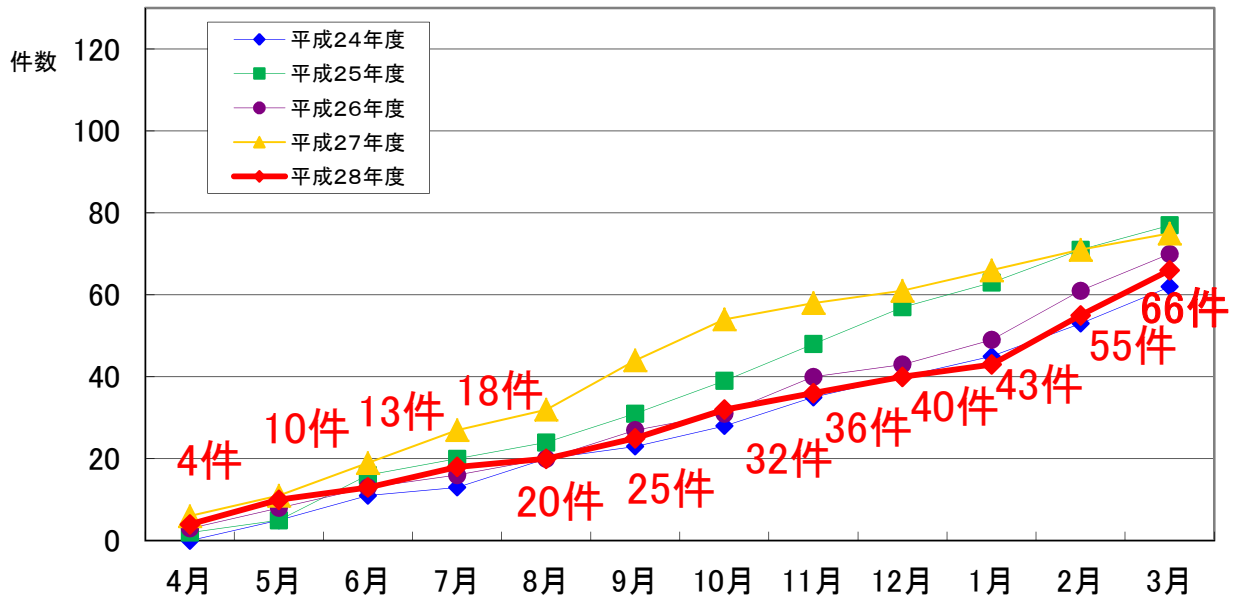
●平成28年度 工事事故発生状況(発生形態別)



発生形態		H26	H27	H28	過去3年間計
労働災害	建設機械等の稼働に関連した人身事故	4	3	3	10
	部材の加工作業等により自らを負傷	2	1	2	5
	資機材等の落下や下敷きで負傷	4	2	3	9
	墜落	6	7	4	17
	準備作業、測量調査業務等における人身事故	0	0	1	1
	その他労働災害	14	13	9	36
小計		30	26	22	78
公衆損害	架空線・標識等損傷	8	13	10	31
	地下埋設物件損傷	7	4	9	20
	第三者の負傷・第三者車両に対する損害	21	16	14	51
	その他公衆損害	8	14	9	31
小計		44	47	42	133
その他事故		1	5	2	8
計		75	78	66	219

●H28年度重点的安全対策項目

(参考)工事事故のうち、「その他公衆損害」における車両管理業務等の車両の自損事故を除く事故件数(車両管理業務等の車両の自損事故を除いた工事事故件数)

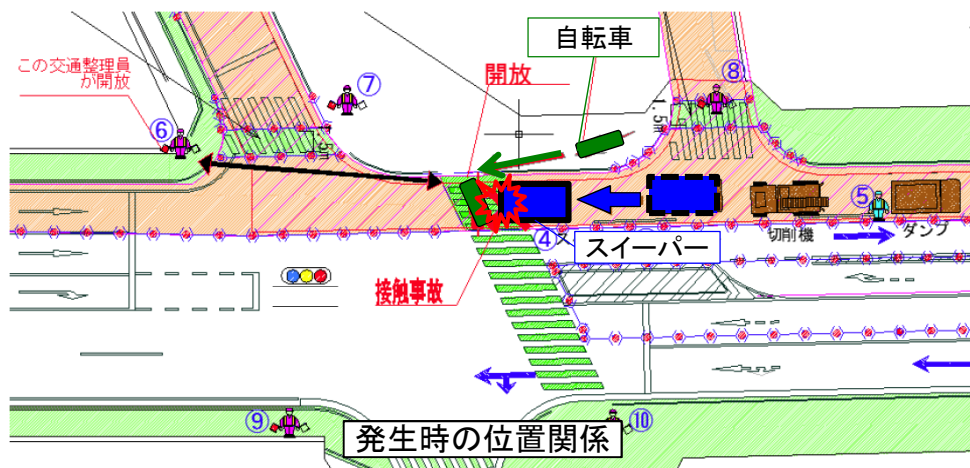


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成24年度 累計	2件	6件	8件	18件	23件	31件	42件	50件	63件	66件	67件	74件
(月毎)	(2件)	(4件)	(2件)	(10件)	(5件)	(8件)	(11件)	(8件)	(13件)	(3件)	(1件)	(7件)
平成25年度 累計	2件	5件	16件	20件	24件	31件	39件	48件	57件	63件	71件	77件
(月毎)	(2件)	(3件)	(11件)	(4件)	(4件)	(7件)	(8件)	(9件)	(9件)	(6件)	(8件)	(6件)
平成26年度 累計	3件	8件	13件	16件	20件	27件	31件	40件	43件	49件	61件	70件
(月毎)	(3件)	(5件)	(5件)	(3件)	(4件)	(7件)	(4件)	(9件)	(3件)	(6件)	(12件)	(9件)
平成27年度 累計	6件	11件	19件	27件	32件	44件	54件	58件	61件	66件	71件	75件
(月毎)	(6件)	(5件)	(8件)	(8件)	(5件)	(12件)	(10件)	(4件)	(3件)	(5件)	(5件)	(4件)
平成28年度 累計	4件	10件	13件	18件	20件	25件	32件	36件	40件	43件	55件	66件
(月毎)	(4件)	(6件)	(3件)	(5件)	(2件)	(5件)	(7件)	(4件)	(4件)	(3件)	(12件)	(11件)

■問合せ先:企画部 技術調査課 西村・高橋 (TEL 048-600-1332)

発生日時	平成 29 年 3 月 4 日 (土) 11 時 40 分			
工事情報	道路系事務所 As舗装工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	女性	69	—	打撲
事故概要	切削作業に伴いスイーパーが後進した際、後方の横断歩道を通行していた自転車の一般車と接触。 公衆損害(人身)ー第三者の負傷・第三者車両等に対する損害			

事故発生状況



- ・路面切削において、切削路面清掃車(スイーパー)が後進したところ、閉鎖されているはずの施工ヤード内(横断歩道部)に進入してきた自転車と接触。
- ・スイーパー運転手はバックモニターを見ながら後進していたものの、後方確認がおろそかになっており自転車に気づくタイミングが遅れたため急ブレーキが間に合わなかった。
- ・本来、事故が発生した横断歩道部は通行規制されており、進入できない状態であったが、作業の進捗に伴い交通誘導員が独自の判断で規制帯の形状を変更していた。

【事故発生原因】

- ・交通誘導員の判断で規制帯の形状を変更した
- ・スイーパーを後進させる際に目視で後方確認せず、現場内誘導もいかなかった など

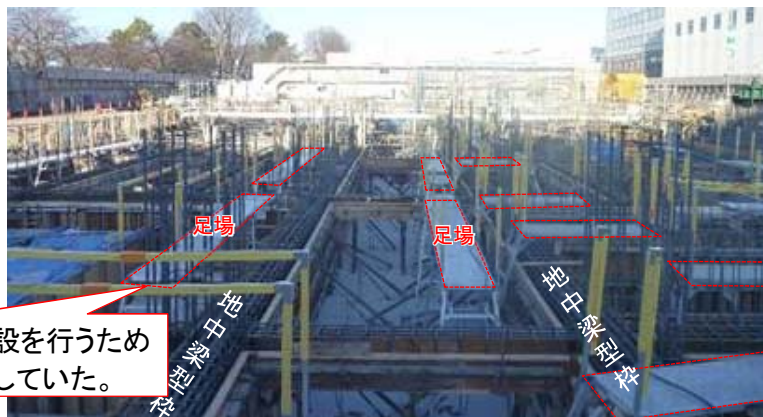
【事故防止のポイント】

- ・作業内容を変更する際は、元請け職員からの指示による作業実施を徹底する
- ・工事車両の目視での後方確認と誘導員による誘導を徹底する など。

発生日時	平成 29 年 3 月 8 日 (水) 10 時 40 分			
工事情報	営繕系事務所 建築工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	男性	57	雑工	左足踵骨折
事故概要	地中梁のコンクリート打設用足場の組み立て中に、地中梁型枠上において二名の作業員で立ち馬の受け渡しを行っていた際にバランスを崩し約1.5mに落下して左足を負傷した。 負傷事故－墜落			

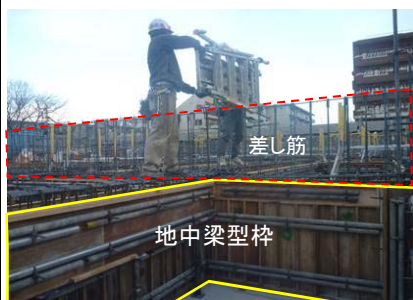
事故発生状況

発生時の作業状況



地中梁のコンクリート打設を行うため足場(立ち馬)を設置していた。

発生状況再現



足場の受渡し
(地中梁型枠上で作業)



足場を下ろしたところ、バランスを崩す



型枠上から落下し負傷

- ・地中梁の型枠設置が完了し、コンクリートの打設を行うための足場を設置していた。
- ・被災した作業員は地中梁型枠上で、別な作業員と足場材の受け渡しを行っていたところ、足場材を下ろす際にバランスを崩して落下し、左足踵を骨折した。
- ・事故が発生した箇所には地中梁に差し筋が設置されており、受渡しに支障となったため型枠上で作業を行っていた。

【事故発生原因】

- ・本来の作業手順どおりに作業していなかった
- ・足下が不安定な型枠上で作業を行った など

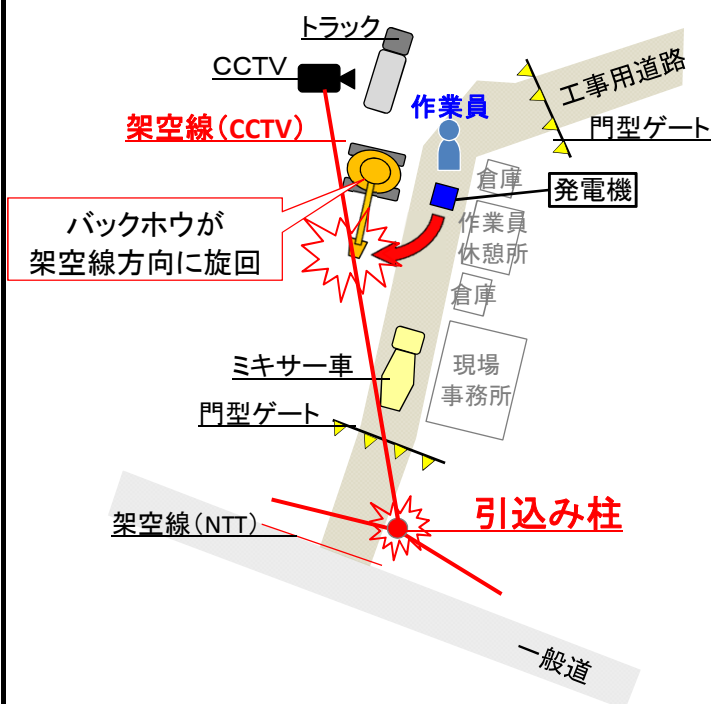
【事故防止のポイント】

- ・施工計画に基づいた適切な作業実施を徹底させる
- ・資機材の移動は足下が不安定な場所では行わない など

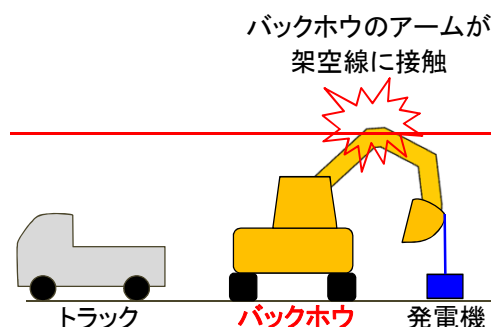
発生日時	平成 29 年 3 月 22 日 (水) 10 時 30 分			
工事情報	河川系事務所 一般土木工事			
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度
	—	—	—	引込み柱、架空線損傷
事故概要	トラックに発電機を積み込もうとバックホウで吊り上げていたが、現場内にミキサー車が進入して来たため、旋回して避けようとしたところ、CCTVの架空線に接触し損傷させた。 公衆損害(物損) — 架空線・標識等			

事故発生状況

事故発生時の位置関係



事故発生状況(側面)



架空線・引込み柱 損傷状況



- ・コンクリート打設作業に使用するため、発電機を施工エリアに運搬しようとしていた。
- ・トラックに積み込むため、バックホウで吊り上げたところ現場内にミキサー車が進入して来たため、回避しようとした際にCCTV用の架空線に接触し損傷。また、架空線に接触した衝撃で引込み柱が倒壊した。
- ・架空線は防護していたが、作業禁止区域の明示等を行っていなかった。

【事故発生原因】

- ・架空線周辺で揚重作業を行っていた
- ・架空線は防護のみであり、作業禁止区域の明示がされていなかった
など

【事故防止のポイント】

- ・架空線周辺での揚重作業禁止の徹底や、資機材積みこみ時の使用機械の限定(ユニックを使用するなど)
- ・作業禁止区域を明示し周知徹底する。
など